

# 子どもの思いをつなぐ保育の展開

弘 中 順 一

## 1. 研究目的

担当する「保育者論」は、「保育者としての専門知識・役割・倫理観・地域との連携（協働）を学ぶ」をテーマにしている。授業概要は、「保育現場の実情、実践、事例などを踏まえ、保育者の役割、倫理、資格、専門性についての理解を深める。また、保護者、地域の専門機関との連携など保育者の協働について学び、実践力や応用力を持った保育者としての専門的知識・技能を身につける」である。保育者の入門期の内容を扱う。

幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園保育要領改訂の根底にあるのは、非認知能力の育成であり、それに向けて「21世紀型の保育の展開」が提案されている。そこでは、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）と「カリキュラム・マネジメント」、幼保小・中・高教育の共通の学び・発達の連続性、その実現に向け5領域を基本としながら「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されている。このことから、現在の保育の動向は、幼保小の連携における「かけはしプラン」と保育の質向上や保育者の専門性向上が大きなテーマとなっている。乳幼児期に子どもに質の高い保育を保障することが、重要なテーマとして扱われている。

そこで、保育の質の向上について、保育の評価の面から、保育者の専門性の向上については、教材化の方法の視点からその在り方を探りたい。

### (1) 保育の質の向上

幼稚園教育で育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目は、小学校への連携・接続の視点と考える。保育者とは、一人一人の子どもを一人の人間として尊厳をもって関わり、子どもがよりよく育つことを促すような関わりや環境構成を行う存在である。家庭と地域と連携しながら、保護者と共に子ども

を育てていく役割を担っている。

子どもとの関りや環境構成をより最適なものにするには「保育の評価」は保育の質の向上を考える上で最も大切であり、PDCAのサイクルの好循環を通して、組織的かつ計画的に各園の質向上を図るカリキュラム・マネジメントが大切である。

保育現場では、子ども主体の保育として「子どもの思いをつなぐ」自由保育を柱にしている園もある。

保育の形態は、『教師が望ましいと思う活動を、一方的に幼児に強いるだけの保育では、幼児一人一人の発達を着実に促すことはできません。』<sup>i</sup>、とあるように指導形態を個々ばらばらの自由保育と解釈されがちである。しかし、『なお、幼児一人一人の発達の特性に応じた指導は、いつでも活動形態を個々ばらばらにしておくことを意味しません。幼稚園は集団の教育力を生かす場ですから、集団生活の中で、幼児が互いに関わり合うことを通して一人一人の発達が促されていくことを踏まえ、一人一人の発達の特性を生かす集団づくりへと保育を展開していくことが大切です。』<sup>ii</sup>とあるように、集団をいかにつくるかその在り方が大切である。

### (2) 保育の評価方法

自由保育を前面に出している園では、指導計画の作成を基に、年齢に応じた「経験させたい内容」を明らかに、子どもの思いを尊重し、環境を整え子ども主体の保育を実践している。しかしながら、設定保育のように、ねらいが見えやすい保育と違い、保護者や地域の方からは、「ただ遊んでいるだけではないか」という見方をされ、そのねらいやよさが理解されていない面も多くみられる。

子どもたちは、遊びや生活の中で美しさや不思議さに気付いたり、見つけたり、驚いたりすることから、考えたり、工夫したりすることで遊びを学びにつないでいる。そこで、この遊びには、どんな学びがあるのか説明を「幼児期の終わりまで

に育ってほしい姿」の10項目から評価をするのが一つの方法である。

指導計画作成には、「幼児の生活を捉える」、「具体的なねらいや内容を設定する」、「ねらい、内容と環境の構成を考える」の三つのポイントがあるが、保育の評価から、「幼児の姿をどう捉え子どもの思いをつなぐにはどのように保育を展開すればよいか、保育の評価に焦点を当て考察したい。「指導と評価に生かす記録」<sup>iii</sup>では、『「記録を書いてみよう」の内容で、「①名簿に書き込む記録②一定の枠組みを決めて書く記録③日案に書く記録④学級全体の遊びを空間的に捉える記録』が紹介されている。特に④では、保育室、園庭での子どもの遊びをグループごとに記述し、★教師の願い、☆援助の方向・環境構成を書き入れている。また、右端に「全体の様子」「〇日に向けて」「〇日の予定」が書かれている。

また「幼児理解に基づいた評価」<sup>iv</sup>の実践事例では、『①日案に残した記録を手掛かりに次の保育をつくり出す、②記録を基にした話し合い、③動画を基にした話し合い、④月ごとの記録と一年の振り返り』を紹介している。

「指導と評価に生かす記録」<sup>v</sup>の記録の取り方では、『(1) 記録の様式と実際として①名簿に書き込む記録、②一定の枠組みを決めて書く記録、③日案に書き込む記録、④学級全体の遊びを空間的に捉える記録が紹介されている。(2) 様々な記録の方法として、写真やビデオなどの映像で残しておくことが多くなった。』とし、映像を利用する場合はその特性をよく理解した上で利用し、頼りすぎないようにすることが重要としている。映像を利用する場合の記録・評価の方法として「保育ドキュメンテーション」がある。保育ドキュメンテーションとは、『1「エピソード記録」と「写真」で、保育者がまとめた記録(写真に代えてイラスト、動画などでも可)。2 やったことだけでなく、子どもの具体的な姿、子どもの心・力の育ちが伝わる記録。3 保育者のみならず、子ども、保護者、さらには地域の人も見ることができ、対話を引き出す記録。4 この作成を通して、保育の振り返りや計画作りができる記録。5 これによって、保育の力が高めあえ、「子どもや保育がおもしろい!」と思えてくる記録。』<sup>vi</sup>である。

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」では、長期と短期の指導計画(実践事例)が

紹介されている。保育を記録視点と読み取り方について、『「保育中のエピソード」、「日々の記録を通して幼児の育ちを捉える」、「それぞれの遊びの姿から学級の実態を捉える」』等がある。<sup>vii</sup>

日常的な保育日誌の記入による振り返りは、簡単な内容になる。日々の保育実践を振り返ってエピソードとして書き残す事は改まって取り組むことになるので、日常的な取り組みではない。このエピソードを書くがために保育の仕事が増えること、時間を見つけることが難しいなどの理由から、継続的な実施は困難であろう。そこで、時間的な負担が少なく、継続的に行うことのできる「保育ドキュメンテーション」の作成からの保育の評価のあり方について事例をもとに検証したい。

「設定保育」「自由保育」の両方から保育の評価を考えたい。保育は、教師は幼児一人一人の特性を的確に把握し、幼児を理解することが基本である。そして、教師があらかじめ幼児一人一人の発達に必要な経験を見通し、各時期の発達の特性を踏まえつつ、教育課程に沿った綿密な指導計画を作成して継続的な指導を行うことになる。設定保育は、保育者が子どもの日常の興味・関心をとらえ、子どもに経験させたい内容を踏まえて教材化し、環境を整えて「一斉に」実施するものである。あくまでも子どもに遊びの提案の形で実施するものと捉える。また、自由保育は、教育的な環境を整えた中で、子どもの意志で遊びを見つけ、主体的に活動するもので、子どもの思いのつながり、遊びの内容の深まりが評価の視点となる。

ここでは、自由保育という保育形態での評価について実践からその在り方を探りたい。

### (3) 保育者の専門性の向上

保育は、人や物と、時間や場所の構成との関係性のなかで成立していく。

保育所保育指針解説では、『保育士には「①子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術、②子ども自ら生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術、③保育の環境を構成していく知識及び技術、④さまざまな遊びを豊かに展開していくための知識及び技術、⑤子ども同士の関りや子どもと保護者の関わりなどを見守り、その気持ちに寄り添いながら適宜必要な援助をしていく関係構築の知識及び技術、⑥保護者等への相談、助言に関する知識及び

技術が求められる。』とある。<sup>vi</sup>

保育者の専門性は、子どもが「あれやってみたい、これはどうしてだろうか。」という遊び活動、知的活動、創造・想像活動等に誘うような環境を用意することにある。「環境を通して教育する、保育する」とは、「応答的な対応」をすることであり、それは「環境をつくる」ことになる。したがって、保育の仕事は、子どもたちの活動をしっかりと観察して、そこで子どもたちがしていることの意味を感じ取り、そこに潜んでいる次への意欲を見だしながら、その気持ちにどう応答すればいいかを考え続けるということになる。この「応答的な対応」をするには、教材について知っておくことが大切である。

ここでは、③の保育環境を構成していく技術として、教材を子どもに経験させたい内容に絡め、子ども主体の活動となるように教材化できるかの視点から専門性を考察したい。「人や物、時間や場所」をどのように構成するか、また、どのような関係性を持たせるかが視点となる。

## 2. 研究仮説と研究視点

### (1) 研究仮説

保育における評価について、「子どもの思いのつながり」を短期の指導計画（週案）と保育ドキュメンテーションから読みとり、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿の項目に当てはめ、みとることができるならば、保育について評価することができ、保育力の向上を図ることができるはずである。

### (2) 研究視点

#### ①研究視点1

子どもが自由に遊びを見つけることのできる環境構成にするには、子どもの遊びの内容を継続的に捉え、必要な物的環境や人的環境の関わり合いが鍵となる。季節、行事等による子どもの思いのつながりを短期の指導計画と保育ドキュメンテーションの内容から読み取る。

#### ②研究視点2

短期の指導計画（週案）、保育ドキュメンテーションから、保育者の子どもへの関わり方の工夫と環境構成変化、子ども同士への関わり方を読み取り、子どもの変容の姿をとらえる。

## 3. 保育の質の向上を図る保育の実際

### (1) 実践園について

学校法人みぎわ学園愛光幼稚園（園長 有馬みゆき）は、周南市の中央部、周南市御弓町に位置する。園の東側に東川流れ、町中にありながら自然環境はよい。園児は一学年25名程度、単クラスの規模である。保育の記録については、『学級全体の遊びを空間的に捉える記録』短期の指導計画（週案）と保育ドキュメンテーションを実施している。

愛光幼稚園では、「思い思いのあそび（自由あそび）」を通しての保育をテーマに、子どもが主体的に遊びを見つけ遊びを継続できる保育を目指している。令和4年2月から12月まで年間を通して実際の保育を見せていただいた中で、子どもの思いのつながりがどのように変化しているのかをこの二つの記録から振り返りたい。

愛光幼稚園では、子どもが主体的に遊びを見つけ遊びを継続できる保育に取り組みで、まず実施したのが「既成のおもちゃの撤去」である。既成のおもちゃがない環境では、子どもが思い思いの遊びを自分で見つける、遊ぶものをつくる必要がある。そこで、室内の環境として、空き箱や紙などの素材の用意、お絵描きやシール遊びができるコーナーを設置している。屋外の環境は、固定遊具、砂場などである。子どもたちは、その場の環境から思いついた遊びを始めて行く。その遊びの中で友達と関わり合い遊びを広め深めていくために「サークルタイム」を実施している。

#### ①年少児クラスでの実践の見方

入園してからの遊びの広がり、環境構成、保育者や異年齢との関わり、季節、行事等から、週案、保育ドキュメンテーションから読み取る。

#### ②年中児クラスでの実践の見方

昨年、年少児クラスからの遊びのつながり、異年齢交流、季節行事から遊びの広がり、深まりを週案、保育ドキュメンテーションから読み取る。

#### ③年長児クラスでの実践の見方

集団での話し合い「サークルタイム」で、自分の思いを出し合い、集団での活動の振り返りをしている。この活動を積み重ねることで、集団の中で自由に自分の思いを表現することができている。思いの広がり、深まりを、子どもの遊びのつながりと友達同士、保育者等の関わりから読み取る。

## (2) 年少児クラス(りす組)の遊びの実際

りす組 保育者：高橋果歩、  
こりす組(満3歳児) 保育者：藤井みなみ  
①週案から見た遊びのつながりの実際

入園して間もない頃の保育室は、ままごととセットがある「お家」、大型段ボールの中で遊ぶ「バスごっこ」、コーナー遊びは、「シール貼り遊び」が机一台、段ボールで作った「テレビ」、机一台に置かれた「クレープづくり」の環境である。子どもたちの中には、遊ぶものを探して、歩き回っている状態である。



図1 「シール張り」「テレビ台」「クレープ」

段ボールで作ったバスには、8人ぐらいが乗り込み、ハンドルを回しながらごっこを楽しんでいた。

また、ままごとも、セットがあるのでこれを使って5～6人で遊んでいた。



図2 バスごっこ

4月当初は、前年度の保育者の経験から必要と思われる環境を作ったスタートとなっている。既成のおもちゃは、ままごとセットなどの数点であり、子どもは自分のしたい遊びを見つけようとし、子ども同士、関わっての遊びにならず、個々の遊びが展開されている。この環境で子どもたちは、「ままごと」、「バスごっこ」の空間に入って集団で遊ぶ子と、「シール遊び」などのコーナー遊びなど、個で遊ぶ子に分かれている。自分のしたい遊びが見つからない子があり、これから遊びを見つけることで、遊びが深まり、関わりが広がるこ

とが期待できる。

ア. 保育室での遊び 6月28日(火)

入園して2カ月あまり。机、椅子等を壁に寄せて広い空間を保育室につくり、「家：ままごと」、「動物づくり」、「廃材あそび」、「シール貼りコーナー」「アイスクリーム」がある。空間的にゆとりが見られ、遊び込む余地があるように見える。

○週案

- ねがい「遊びを通して、玩具を大切に使い、気の合う友達を見つけて、楽しんで過ごす。」
- 全体の様子「廃材あそびでは、自分の思いをもとに保育者と一緒につったり、周囲の子どもたちも楽しそうな雰囲気に誘われて友達同士で同じ遊びをする様子が見られる。」
- 次回に向けて「ケーキ屋さんをするためのケーキの材料の準備し、すぐにつくって遊ぶことができるように事前に準備しておく。」

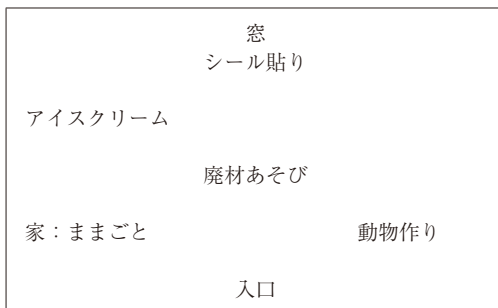


図3 「年少6月28日(火) 保育室遊び」



図4 「ままごと遊び(家)」

家(ままごと)では、アイスクリームを売りに来た友達からアイスクリームをもらって家の中で食べて遊んでいる。お店ができたことで、家で遊んでいる子どもたちが、買い物をしにお店屋さんに行く姿もあり、少しずつ遊びが広がってきた。

シール貼りは、4月の頃は個々での取り組みになっていたが、5月頃からは多くなってきた。

イ. 保育室での遊び7月7日(木)

約2週間であるが、遊びの継続が「家：ままごと」、「廃材あそび」、「シール貼り」で、「アイスクリーム」が、「お店屋さんごっこ」に広がり、「カブトムシ観察」が新たに入り、季節により興味・関心が変わっている。

○週案

- ねがい「自分の好きな遊びを見つけてほしい。」
- 全体の様子「興味のある遊びや新しい遊びには、子どもが集中する。少し時間がたつとそれぞれの遊びに落ち着く。玩具が床に落ちていることが多く、そのままにして遊ぶ。」
- 次回に向けて「お店屋さんごっこは、次のケーキ屋さんを作る為に絵の具や段ボールなどを事前に準備し色を塗ることができるようにしておく。」

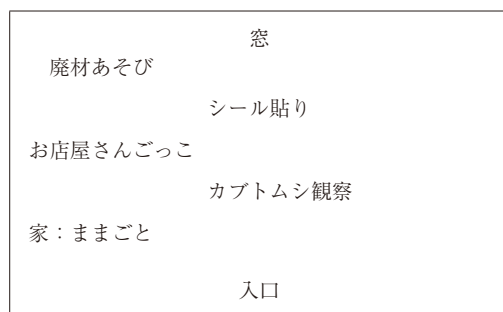


図5「年少7月7日(木) 保育室遊び」



図6「家：ままごと(7月)」

ウ. 保育室での遊び7月14日(木)

○週案

- ねがい「コミュニケーションを取りながら遊びを深めてほしい。」

• 全体の様子「遊びの初めから最後まで同じ遊びをする。興味のある遊びを何個か巡って遊ぶ子もいる。片付けの際には、決まった子が最後まで片付けていることが多い。」

• 次回に向けて「片付けの際には、全体が最後まで取り組めるような声掛けをするように心掛ける。」

○カブトムシ観察

毎日カブトムシが来てから朝の観察が続いている。カブトムシを触ることが苦手な子どもに対して触れる子が「角、触るんよ!」とコツを教える姿もあった。

○セミの抜け殻観察

家から持ってきたセミの抜け殻を大切に袋の中に入れて観察していた。

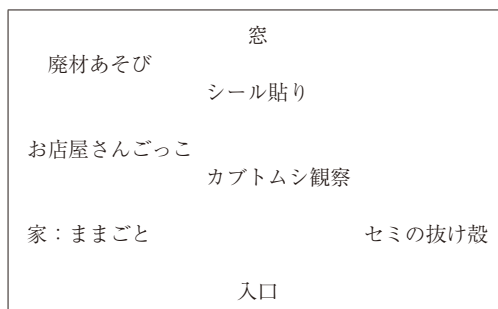


図7「年少7月14日(木) 保育室遊び」

エ. 保育室での遊び9月29日(木)

夏休みがあけて、9月の運動会前の様子。遊びの継続が「家：ままごと」、「廃材あそび」、「シール貼り」、「お店屋さんごっこ」で窓のところに、ハサミ、糊が使えるコーナーが新設され、紐通しの遊びが新たに加わる。

○週案

• ねがい「興味のあるあそびを見つけて、楽しんで遊んでほしい。」

• 全体の様子「一人一人が好きな遊びに集中していた。自分なりに考えながら工夫してつくっている姿も見られた。ダンスで踊るがステージをつくりたいに変化した。」

• 次回に向けて「ダンスでは、ステージが作れるように大きな段ボールを準備しておく。」

はさみコーナーには、丸、三角、四角の画用紙を用意している。壁や仕切りを使うことで周りが気にならず落ち着いてはさみを使うことができている。子どもが必要とする紙も四角だけでなく、

丸、三角を置くことで表現の幅を広げることができ、子どもの集中力を長くなるように工夫できている。

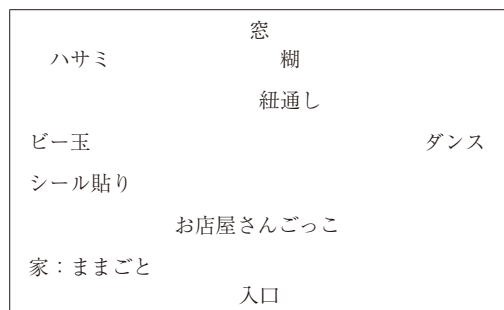


図8「年少9月29日（金）保育室遊び」

オ. 保育室での遊び10月7日（金）

○週案

- ねがい「好きな遊びを自らが選択して欲しい」
- 全体の様子「ダンスのステージづくりでは、友達同士で意見を出し合ってイメージを共有していた。友達の関わりも前と比べて、より深くなってきた。」
- 次回に向けて「ステージに色が塗れるように、事前に聞いていた色を準備しておく。」

遊びでは、紐通しが洗濯ばさみ遊びになった。

○ダンス

話し合いを通して、言葉で自分の気持ちを伝えたり、友達との協調性が少しづつだが育まれていたように感じた。

○ビー玉 T君

以前は、部屋を歩いてから遊びが決まらないことが多かったが、最近は好きな遊びを見つけて遊ぶ姿が見られるようになった。

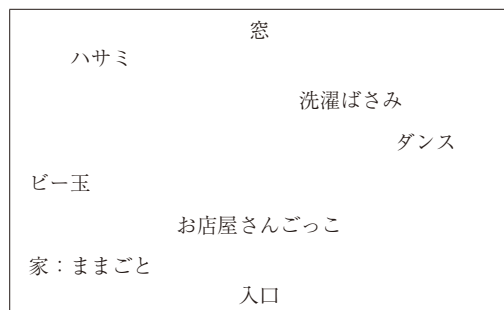


図9「年少10月7日（金）保育室遊び」

カ. 保育室での遊び10月14日（金）

○週案

- ねがい「コーナー遊びの中で自分なりに遊び方を見つけて欲しい」
- 全体の様子「ステージづくりでは、やっと今までつくっていたものが完成し、子どもたちもとても嬉しそうな様子だった。楽しそうな雰囲気につられて多くの子どもが夢中になっていた。」
- 次回に向けて「クラスの中だけでダンスをするのでなく場所を変えたりお客さんを呼んで披露する機会をつくっていきたい。」

遊びでは、厚紙遊びが加わった。

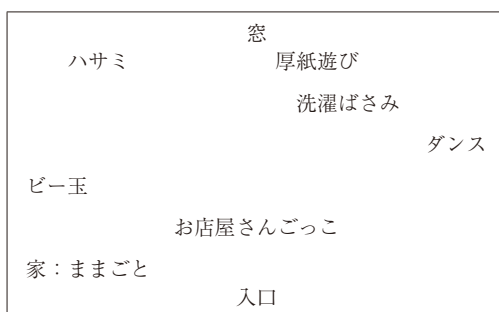


図10「年少10月14日（金）保育室遊び」

ままごとコーナーは、6月より同じ位置に継続して設置してある。コップや水場など既成のものになっているが、そこで料理をつくったり、食べたりの遊びに使うものはつくっている。



図11「年長児のダンス見学」



図12 「年少児のダンス披露と応援の年長児」

10月、11月と運動会で年長の演じたダンスを真似たくて、ダンス遊びが始まった。ダンスを踊るときの衣装、ボンボン、ダンスの舞台の背景をつくり、音楽に合わせてダンスを披露している。図11は、年長児クラスが、ミニの踊りの舞台をつくり、その上で2人が踊っている場面である。脇で手製の太鼓でリズムをならしている。年少児は、その様子を見学し、その後、年長児を招待して図12の場面につながっている。

②週案から見た子どもの思いのつながり

7月の週案のねがいは、「自分の好きな遊びを見つけてほしい。」とあるように、入園して4カ月、子どもの自分の遊びを見つかるようになってきている。また、全体の様子は、「興味のある遊びや新しい遊びには、子どもが集中する。少し時間がたつとそれぞれの遊びに落ち着く。」とある。新しい遊びにも目を向けるが、自分の思いにあう遊びを見つはて遊び込めるようになっている。

表1 「年少児の月ごとの遊び」

月	ままごと	お店屋 ごっこ	バス ごっこ	コーナー	ステージ	製作 コーナー
4	■	■		■		
5	■					■
6	■					
7	■					
8	■					
9	■		■		■	
10	■					
11	■	■		■	■	■

表1にあるように、4月より継続し、だんだん遊びの内容が深まっている遊びがある。また、年中児や年長児との交流により新たに始まる遊びがあり、園に慣れるにしたがって互いの関わりが広がり、深まっている。

また、コーナー遊びは、他の友達に邪魔されず個人で集中して遊べるように壁側に設け、仕切りもしてあり、内容も、子どもにニーズに合わせて充実したものになっている。ままごとコーナーは、6月より同じ位置に継続して設置してある。コップや水場など既成のものになっているが、そこで料理をつくったり、食べたりの遊びに使うものはつくっている。6月には机一つを使った簡単な「シール貼りコーナー」であったが、10月の環境では、折り紙やセロハンテープなどが用意された「製作コーナー」が用意され(図13)、つくりたいものを自分でつくれる環境になっている。図14は、ハロウィンで使う帽子の飾りをつくっている。図15は、箸でスポンジを掴んで移す遊び、図16はお絵描きコーナーである一人遊びで、集中し、継続して遊べる環境になっている。



図13 「コーナー遊び」



図14 「はさみコーナー」



図15 「掴み運び遊び」



図16 「お絵かきコーナー」

③保育ドキュメンテーションの実際(年少児)

幼児期の終わりまでに育って欲しい姿10について、健康な心と体 = 1、自立心 = 2、協同性 = 3、道徳性・規範意識の芽生え = 4、社会生活との関わり = 5、思考力の芽生え = 6、自然との関わり・生命尊重 = 7、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 = 8、言葉による伝え合い = 9、豊かな感性と表現 = 10を以後、数字で表記する。

ア. 保育ドキュメンテーションの題名・内容と10の姿（6～7月）

年少児クラス保育ドキュメンテーションの題

- 「りす組になって2日目！涙が出るがありますが、少しずつ好きな遊びを見つけている姿が見られます。」4月12日 シール貼り、ブロック積み、クレパスで描いた、パン作り、ままごとなど10枚の写真。(1, 2, 3, 6, 8, 9, 10)
- 「保育室での遊び」シール貼り、ブロック、段ボールのトンネル、新聞紙遊び、など写真13枚 (1, 2, 3, 4, 6, 9, 10)
- 「段ボールハウス」など写真10枚 (1, 2, 3, 4, 6, 7, 9, 10)
- 「キリン組のお兄さんが捕まえたテントウ虫の観察」、「ビー玉転がし」、「新聞紙遊び」など写真12枚 (1, 2, 3, 4, 6, 7, 9, 10)
- 「虫探し」ダンゴムシを探す写真2枚。(1, 3, 4, 7, 9, 10)
- 「SL乗車中～」段ボール箱に入ってSLごっこの写真2枚 (3, 4, 6, 9, 10)
- 「アイスクリーム屋さんとケーキ屋さんがオープン」写真4枚 (2, 3, 4, 6, 9, 10)
- 「魚釣りブームのりす組さん！」写真2枚 (3, 4, 6, 9, 10)
- 「魚釣りで釣った魚でBBQー！」「お弁当箱も用意したよ」「お肉も焼けたよ」「マシュマロ焼けるかな？」写真4枚 (2, 3, 4, 6, 9, 10)
- 「魚釣り中」「大きなプールも入って気持ちいいな～」写真2枚 (2, 3, 4, 6, 9, 10)
- 「テント：ここ抑えるよ！ガムテープちょうだい！とテント作りにも積極的です」写真4枚 (3, 4, 6, 9, 10)
- 「びわの種」写真3枚「ヘリコプターだ！」写真1枚 (1, 3, 5, 7, 9, 10)
- 「お家の中では・・・テレビもあるんだよ」「今日は何のご飯？」「家には窓もあるんだ～」「家からご飯を持ってきてピクニック」写真4枚 (2, 3, 4, 6, 9, 10)
- 「お家の色塗り」写真4枚 (2, 3, 6, 9, 10)
- 「絵の具は気持ちいいな～」「ピンポンもいると、名案が！！」写真4枚 (6, 9, 10)
- 「家からバスに変身。バスに乗ってお化け屋敷に行く！と張り切っているりす組さん」「切符を入れる鞆も！」「バスの中ではご飯も食べたりする」「ハンドルを持って、バスごっこの歌を歌い

ながら」写真4枚 (3, 9, 10)

- 「カミキリ虫持ってきたよ！」写真2枚、「バス停、バスには、バス停がいる！と素敵な案が！」写真1枚。(1, 2, 3, 7, 8, 9, 10)
  - 「いらっしゃいませ～！なにアイスがいいですか！？」「アイスの上にシールでトッピング」、「散歩をさせたり、家に一緒に入ったり。最近、ウサギの他に猫や象など色々な動物が増えました。」写真4枚。(1, 3, 4, 6, 9, 10)
  - 『虫の観察』。「今日は家からバッタを持ってきました。」「図鑑を持ってきて、見比べ中！この虫見たことある！」と虫かごの中を観察する姿と図鑑調べの写真を載せている。『カブトムシ観察』『りす組からカブトムシのプレゼント。見せて見せて！もっと見たいと大人気です。』(3, 7, 9, 10)
  - 『ケーキ屋さんづくり』『教室に貼ってある写真を見て、ここに行ったことある！ケーキ屋さんだ』『写真を参考にどんなケーキさんにしたいかの絵を描いてくれました』、「柱を作っている最中に、・・・どっちが高い？同じくらい？牛乳パックの方が高いよ！！と背比べが始まりました。」写真4枚。(3, 5, 6, 8, 9, 10)
  - 『ケーキ屋さんのお店を色塗り』写真3枚。(1, 3, 6, 9, 10)
  - 『アイスクリーム屋さん』『いらっしゃいませ。お店の人やりたい。』写真3枚。(3, 4, 9, 10)
  - 『カブトムシ観察』(3, 4, 7, 9, 10)
- 夏休み

イ. 保育ドキュメンテーションの題名・内容と10の姿（9～11月）

- 「きりん作り」9月8日 (3, 6, 8, 9, 10)
- 「きりん作り」9月13日 (3, 6, 9, 10)
- 「カブトムシの幼虫」9月13日 (3, 6, 7, 9, 10)
- 「車に乗って」9月19日 (3, 5, 8, 9, 10)
- 「ダンス」9月26日 (1, 3, 6, 9, 10)
- 「ゾウ作り」9月29日 (3, 6, 9, 10)
- 「カブトムシの幼虫」10月5日 (3, 7, 9, 10)
- 「りすぐみ病院」10月7日 (3, 4, 9, 10)
- \*キリンの足の修理
- 「三角つなぎ」10月12日 (6, 8, 9, 10)
- \*三角形の折り紙をつなぐ遊び
- 「洗濯ばさみ」10月18日 (2, 3, 4, 6, 8, 9, 10) \*洗濯ばさみを使っ



- 「ダンス」10月19日 (1, 2, 3, 6, 9, 10)
- 「うさぎ組とキャンプ」10月24日 (1, 2, 4, 9, 10)
- 「戸外あそび」10月26日 (1, 2, 4, 6, 9, 10) \*じょうろ等を使った水遊び)
- 「太鼓披露」11月1日 (1, 4, 9, 10)
- 「廃材あそび」11月1日 (2, 3, 4, 6, 9, 10) \*空き箱をセロハンテープで止めて
- 「見つけたよ!」11月7日 (1, 5, 7, 9, 10)  
\*落ち葉を拾って
- 「ままごと」11月8日 (1, 4, 9, 10)  
\*一緒に食べようね。ハンバーガー、アイス
- 「新しいお家ができたよ」11月17日 (1, 4, 9, 10)
- 「カブトムシ幼虫」11月21日 (3, 4, 7, 9, 10)
- 「おすし屋さん」11月29日 (2, 3, 9, 10)
- 「絵具でヌリヌリ」12月8日 (1, 3, 4, 9, 10)
- 「コアラ作り」12月12日 (2, 3, 6, 9, 10)  
\*段ボール箱を使って
- 「カブトムシ幼虫観察」(1, 7, 8, 9, 10)
- 「どのくらい長い?」(4, 8, 9, 10)  
\*折り紙の輪っかをつなげ、どれくらい長いか床に寝て自分たちの身長の何人分かを比べる

表2「保育ドキュメンテーションに記された10の姿・年少児」47事例

10の姿	健康な心体	自立心	協同性	道徳性規範	社会生活	思考力芽生え	自然生命尊重	数量図形文字	言葉伝え合い	感性と表現
47	12	15	36	15	5	20	12	6	47	47

④保育ドキュメンテーションによる保育評価

4月に入園した子どもの遊びは、個々に興味のある遊びを探しているが、子どもによっては遊びが決まらず歩き回っている姿も見られた。また、個々の遊びにとどまり、集団での遊びに発展しない。保育者の環境作りにより、色々な遊びを見つけ出し、徐々に遊び込むことができるようになってきている。周囲の環境と季節の変化から虫探しをしたり、カブトムシの幼虫に目を向けたりと周囲の環境との兼ね合いで興味・関心に変化

がみられる。年長組との交流から、お店屋さんごっこ、年中児クラスとテント遊びを一緒に始めるなど交流による遊びの深まりが見られ、遊びをまねることから「お店屋さんごっこ」が始まった。

シール貼り遊び等のコーナー遊びは、自分のやりたい時に自由に、少人数で集中して取り組んでいる。このコーナーの充実は、子どもの意欲・関心をとらえた保育者の環境設定によるところが大きい。

運動会といった行事から、年長児のダンスに憧れ、ダンスをする新たな遊びを見つけている。また、年長児との交流を通して遊びが深まっている。

保育ドキュメンテーションは、保育者がとらえた子どもの様子であり、5領域や10の姿を意識して捉えたものではない。作成した保育ドキュメンテーションを10の姿から分析し、評価することが保育の見直しになる。この園の取組みでは、子どもの遊びは、協同性、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現が必ず関わっていて、遊びもその内容に関わることが多いと言える。年少児では、年齢発達により社会生活、数量図形文字の事項が少なくなっている。健康な心体、自立心、道徳性規範などは、他の年齢と比率が同じである。10の姿について、遊びの内容により偏りもあるが全部の項目について触れることができている。

子どもの思いを尊重し、思いがつながるように環境を整え、「保育者の願い」を週案に入れることで、保育を振り返っている。保育ドキュメンテーションを作成することで子どもの思いをくみ取り、その思いが継続するように環境を整えてきている。コーナーが持続し、内容が深まっている姿から偏りのない保育を展開できているのではないかと。

(3) 年中児クラスの遊びの実際

うさぎ組 (年中児) 保育者 倉住帆波

①年少児クラスの時代からの遊びの継続

令和4年3月7日(月)の訪問の際の遊びで印象に残っているのが「乗り物ごっこ」である(図17)。



図17「乗り物ごっこ：踏切」



図18「線路」



図19「電車ごっこと信号」

保育室入り口付近に踏切を設け、乗り物ごっこをしている子が通りかかると遮断機を下ろし、車を止める。保育室に向かって線路を引いて電車を通すようにしている。保育室に入ると段ボールで電車が作られており、運転手の帽子を作って被っている。お客さんも乗っており、電車ごっこが始まっている。

電車の向こうには、信号機があり、乗り物（自動車）を信号の色を変えては動かしたり、止めたりしている（図18、19）。

別のコーナーでは、スポンジを箸で掴んで隣の容器に移す遊びをやっている（図20）。



図20「掴み運び遊び」

## ②週案から見た遊びのつながりの実際

### ア. 保育室での遊び 6月16日（木）

6月16日の保育室の遊びは、「車ごっこ」、「廃材あそび」、「カップタワー」、「ポケモン相撲」、「お絵描き」である。ここで、週案の記録を基に遊びの様子を紹介する。

#### ○週案

「車ごっこ」では、保育室の中央の床にセンターラインが貼られ、方向を示す矢印と速度制限30が床にテープで貼られている。横断歩道がつくられ、年少の時に使った信号機と遮断機を年中にも使っている。「運転する時は免許証が必要。」と

子どもが言い出し、運転手役の子どもは免許証をつくってもらい持っている。歩行者役の子どもは手を挙げて横断歩道を渡っており、子どもたちなりのルールをつくって楽しんでいる。

「廃材あそび」では、『遊びの中に入れず室内を走り回っていたが「何か遊びたいもの見つかった?」との保育者の問いかけに「ロボットつくりたい」とう意見がまとまりつくり始めた。毎日コツコツ作るがなかなか続かず、次の日は全く違うものをつくっていた。』

この記録を基に、「次回に向けて」の欄に、『遊びに自分から入れない子どもがいたため、声掛けや何に興味があるか観察する。遊びが広がるための段ボールや廃材を準備する。』と記されている。

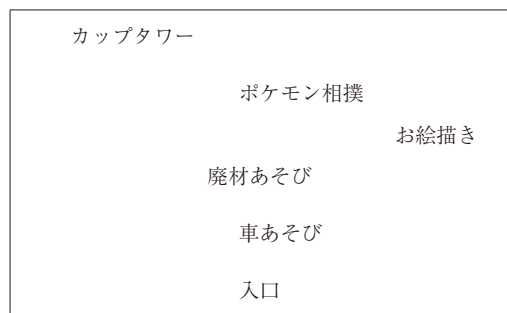


図21「6月16日保育室遊び」

### イ. 保育室での遊び 6月24日（金）

#### ○週案

- 保育者の願い：友達と保育者と会話しながら遊んで欲しい
- 全体の様子：意見を出す子どもが多くなって、遊びがどんどん深まっているように感じる。  
遊びに自ら入ることのできない子どもに保育者から声を掛けると一緒に遊ぶことができた。

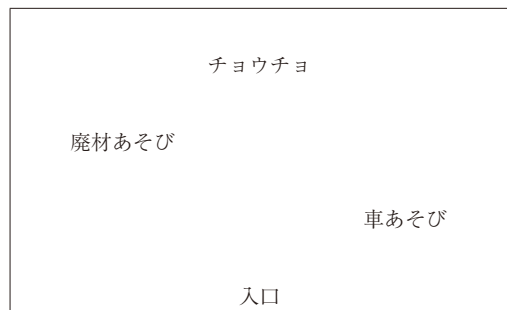


図22「6月24日保育室遊び」

○今週は前半の話し合いで、シャボン玉の話題が出て、その実験を行ったり、幼虫から育てたチョウチョが孵化したりなど、いつもと違う出来事が沢山起こり、子どもたちの興味から様々なことを調べたり発見したりすることができた。

遊びの中で、車あそび、廃材あそびは続けている。車あそびでは、ドライブスルーのお店屋さんオープンしている。

チョウチョが孵化したことで、図鑑で蝶の名前や餌を調べる活動が始まった。

シャボン玉遊びを園庭で行っている。

この記録を基に、「次回に向けて」の欄に、『シャボン玉実験がスムーズにできるように環境づくり。引き続き遊びに入ることが困難な子どもへの援助。』と記されている



図23「年中児保育室：乗り物ごっことお店」

自動車に興味のあるY君は、広告の自動車の写真を切り抜き自動車の名前を説明してくれた。首には、免許証を保育者に作ってもらっていたが、最近では興味がないようだと言われた。保育室に入った所に、ガソリンスタンドが設けられており、給油に来た担任に給油を始めた。右側奥には、お店屋さんごっこに使うレジスターが作られているがまだ、簡単なものである。そしてその側では、お店屋さんごっこの机が並べられ、お店で売る商品を作っている。



図24「免許証は？」



図25「踏切上がります」

年中児になっての遊びは、年少児の時の「乗り物ごっこ」が継続している。電車は、段ボール箱でつくり線路の上を走らせているが、踏切や信号機は年少時のものを使っている。自動車ごっこの遊びは、給油スタンドや免許証、広告の自動車の切り抜き、道路のセンターラインなどが見られ、遊びが広がり、深まりを見せている。



図26「給油スタンド」



図27「給油します」

お店屋さんごっこは、遊ぶ人数も増え、商品と一緒に作ったり、レジスターを作ってお店らしきを出している。

お絵かきは、壁際のコーナーではなく、机4台を合わせ、シール貼りや定規を使って描く遊びになっている。

壁際のコーナーでは、数人が空き容器を積み上げる遊びを始めている。ゲーム遊びをどのようにするか話しながら遊んでいた。



図28「お絵かきコーナー」

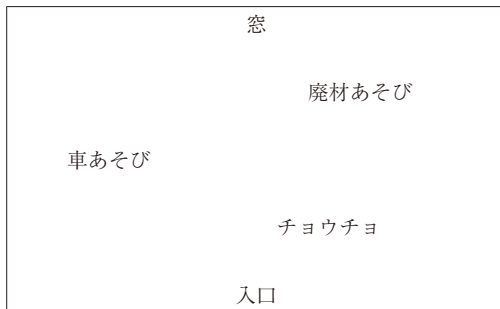


図29 「6月24日保育室遊び」

ウ. 保育室での遊び7月14日（木）

○週案

- ねがい「コミュニケーションをとりながら遊びを深めて欲しい。」

○テントづくり

段ボールの芯を2個つなげて大きなテントを製作。

○お店屋さんごっこ

ドーナツやジュースなど以前からあるお店屋さんを引き継いだ。

○車ごっこ

○虫の観察

毎日誰かが虫を連れてきている。

- 全体の様子「これまでは中々、自分から遊びに入ることが難しい子どもが多かったが、全体的にスムーズに遊びには入れる子どもが増えてきた。」
- 15日に向けて「テントの中で、BBQごっこをすることで遊びは広がったがそこから発展しないため、全体での話し合いを行う。」子どもたちの「やりたい！」という思いをすぐに実行できるようにするための環境整備。

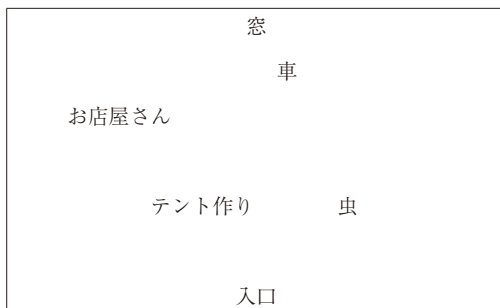


図30 「7月14日保育室遊び」

エ. 保育室での遊び9月12日（月）

○週案

- ねがい「自ら遊びを見つけ積極的に遊び込みに取り組んで欲しい。」

9月になって、夏休みに昆虫に興味を持った子どもが、折り紙の蝉などを折って遊び始めたことから、保育室の柱の部分に段ボールで作った木を配置している。虫取り籠や段ボール筒で作った網が用意され「虫取りごっこ」の環境ができています。木には、折り紙で折った蝉やカブトムシがいる。虫かご一杯に折り紙の蝉が入っている。

ゲーム遊びは、段ボール箱にボールが入る穴を開け、そこにボールを入れるゲームになっている。動物が絵の具で描かれ、ボールが入る穴は口になっている。季節と共に子どもの興味・関心が変わっていくことに担任が気づき、それに合う環境をつくり、子どもに関わっている様子が伺われる。



図31「蝉の止まる木」 図32「虫かごと折り紙の蝉」

オ. 保育室での遊び10月12日（水）

○週案

- ねがい「自分のやりたい遊びを考え、話し合ったり教えあったり遊びを深めて欲しい。」

10月になると、大きな木は撤去され、長い段ボール筒とカラービニールを使ったテントができていた。テントは、倒れないように段ボール箱に筒を入れる穴が開けられ、そこに筒を差し込んで立つように工夫されている。テントの中では、ままごと遊びが始まっている。野外用のバーベキューコンロを段ボールを使ってつくり、団扇で扇いで火を熾したり、焼き肉を作って摘まんだりしている。子どもたちは、保育室だけでなく屋外に持ち出し、園庭にテントを張り、その中でキャンプごっこが始まっていた。

この遊びも、7月に家族でバーベキューをした体験から始まった。行事や体験から遊びのきっかけがあり、なりきりのごっこ遊びにつながっている。また、年少児クラスの子どもと一緒にBBQをす

る場面があり、異年齢交流が自然に見られ、遊びの広がり、深まりが見られる。



図33「BBQコンロ」



図34「キャンプごっこ」

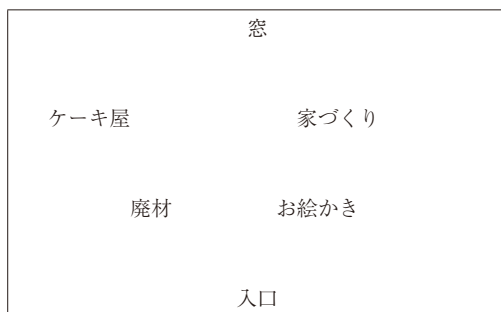


図35「10月12日保育室遊び」

保育室では、お店屋さんごっこも継続しており、お店の商品作り、お買い物に使う財布作りなど遊びに使うものを作るなど遊びが深まっている。



図36「お店屋さんごっことレジスター」

表3「子どもの遊び（年中）」

月	乗り物ごっこ	お店屋さんごっこ	セミ取り	コーナー	BBQテント	ゲーム
4	■	■		■		■
5	■	■		■		■
6	■	■		■		■
7	■	■		■		■
8	■	■		■		■
9	■	■	■	■	■	■
10	■	■		■		■
11	■	■		■		■

③保育ドキュメンテーションから見た評価  
ア. 保育ドキュメンテーションの題名・内容と10の姿

○「大きな段ボールでロケット」「手裏剣をつくって忍者ごっこ」「恐竜つくりたい」「うさぎづくり」「地球儀で地球の形調べ」「図鑑を家から持ってきて」4月日7枚の写真。(2, 3, 6, 9, 10)

○「タンポポの綿毛」「川の観察」「恐竜づくり」「雲梯ぶら下がり」「遊具あそび」など写真11枚(1, 3, 7)

○「バイオリン」「ヨーグルトの容器でタワー」「恐竜に乗る」「粘土遊び」など写真11枚(3, 8, 9, 10)

○「ある日のから揚げ屋さんごっこで・・・」「シャボン玉」「紫陽花の葉の観察」など写真5枚(1, 7, 8, 9, 10)

○「ある日のお店屋さん」「忍者にはまっています」など写真4枚。(3, 4, 5, 6, 9,)

○「雨の日に、部屋で新聞紙あそび」写真4枚(1, 5, 8, 10)

○「紙皿独楽回し」写真2枚(3, 4, 6, 9)

○「世界の国の勉強中」地球儀で写真2枚(8, 9)

○「朝顔の種植えました！」写真3枚(6, 7)

○「ペットボトルのキャップでタワー」「お店屋さんごっこではドライブスルーが始まりました」「朝顔の芽が出ました」写真3枚(1, 5, 7, 8, 9)

○「ガソリンスタンドができました」「プーさんの縫いぐるみをシャワーで」写真2枚(5, 6, 9)

○「乗り物遊び」「電車遊び」写真3枚(3, 4, 5, 9)

○「コースをつくってビー玉転がし」「恐竜ロボットをつくりました」「ポケモン相撲をしました」写真3枚(3, 6, 9, 10)

○「シャボン玉あそび」写真2枚(1, 5, 7, 9)

○「いつのようにさなぎを観察すると」「羽化した蝶探し」「窓のところにいた」写真3枚(3, 6, 7)

○「飛んでる蝶、捕まえた」「かごに入れて観察」「図鑑で調べたら」写真3枚(3, 6, 7)

○「砂糖水、舐めた」「戸外に放す」「蝶が見えな

くなるまで見送る」写真3枚、(7, 9)

- 「船で遊んでいたら雨が降ったら動かん」「カラーポリで屋根づくり」「地球儀で」「クレパスでティラノサウルスかいた」写真4枚。(3, 5, 6, 9, 10)
- 「お店屋さん増やそう」「焼肉」「焼肉テントでしたい」(3, 5, 6, 9, 10)
- 「絵本づくり」「ドーナツづくり」「どうなつやさんの看板づくり」写真3枚。(3, 6, 7, 8)
- 「苺ドーナツ」「焼肉→キャンプにつながってきました」「テントの中でBBQ」写真3枚。(3, 5, 6, 9, 10)
- 「大きなテントができました」「お握り焼けたよ」「女の子は最近はやりの」。写真3枚。(3, 5, 6, 9, 10)
- 「肉が焼けるのを待っています」「小さいテント、今日は上靴を置くテントに」「以前作った車に乗って」(3, 6, 8, 9, 10) 以下略

表4 「保育ドキュメンテーションに記された10の姿年中児」56事例

10の姿	健康な心体	自立心	協同性	道徳性規範	社会生活	思考力芽生え	自然生命尊重	数量図形文字	言葉伝え合い	感性と表現
56	20	6	37	6	14	37	24	16	46	34

保育ドキュメンテーションの内容を見ると、週案の記された内容よりも詳しくみとることができる。シャボン玉や虫取りなど自然環境に関わって子どもの興味・関心が変わっていることに関して担任の保育者がしっかり目を向けていることを示している。週案から読み取れない10の姿についても、各項目万遍なく記述できている。特に、協同性、思考力の芽生え、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現について、ほぼ、当てはまり、自然との関わり・生命尊重についての割合が増えてきている。

年中児の遊びは、年少児クラスでの遊びの経験から継続して遊ぶことができ、深まりをもたすことができている。また、BBQとテント遊びに見られるように、家庭での体験から遊びをつくりだし、異年齢交流もできるようになっている。

#### (4) 年長児クラスの遊びの実際

キリン組(年長児) 保育者 本間朱里

##### ①サークルタイムでの話し合いから

年中児クラスの終わりのころから、皆で活動したこと感想を話し合う「サークルタイム」の時間を設けている。皆で取り組む活動にすると、子ども個々の思いをお互いに出させることで活動の方向性を探っている。

サークルタイムとは、『クラス集団などで輪になって対話を行う活動です。「イギリスの小学校など、英語圏の初等教育を中心によく持ちられる教育方法のひとつ」で「子どもの主体性や協調性、話す力や聞く力を育むために用いられるもの」と紹介されています。』<sup>ix</sup>である。



図37 「サークルタイムでの話し合い」

昨年度の年長児クラスは、「動物園づくり」で、年中の時に、その動物園に招待され遊んでいる。そこで、年長になったらこのような活動することを期待して進級している。園外保育で、「町探検」に出かけ、お店屋さんの見学をした体験から「町づくり」の案が浮かんできた。町作りの方向を探るために、サークルタイムでの話し合いから図38のようなウェブマップにまとめていっている。

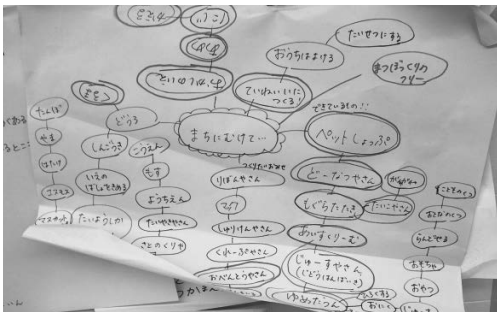


図38 「町作りマップ」

話し合いの後、それぞれの思いで街づくりが始まっている。4月初頭にできたお店は、訪問するたびに、屋根を治したり、色を付けたり、中の商品をつくったりと活動が継続している。

ア. 保育室での遊び 6月16日 (木)

○週案

- ねがい「友達と思いを共有しながらそれぞれの遊びを広げて欲しい。」

〈朝の思い思いの遊び〉

先月から増築した家の部分に色塗りをしたいと女の子同士で話している姿をよく聞いていた。

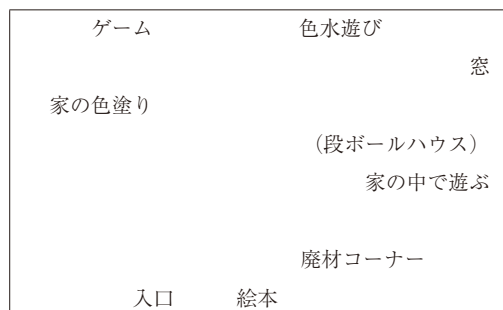


図39「年長6月16日(木) 保育室遊び」

- 全体の様子「ここ数日は、段ボールハウスを大きくする事にこだわっていたが、今日は家の部分に色塗りをする姿が多く見られた。

色水遊びでは、混色を楽しんでいる姿が見られ、今までとは違う楽しみ方をする姿がある。」

- 17日に向けて「色水遊びは戸外の遊びの時間にも取り組めるように環境をつくりたいと思う。」

段ボールハウスに色を塗ったので次の段階に向けて用意したい。」

イ. 保育室での遊び 7月1日 (金)

○週案

- ねがい「好きな遊びを自らが選択して欲しい。」
- 全体の様子「廃材遊びだけでなく国旗ゲームを子どもたちが出したことが印象的でした。」
- 4日に向けて「室内では、家の中での遊び、虫、廃材あそびが主流になってきている。」

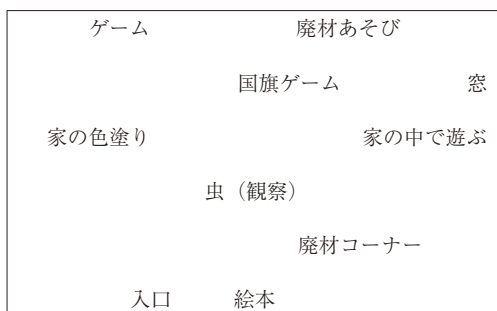


図40「年長7月1日(金) 保育室遊び」

○園庭・・砂場で水の道(川)づくりに夢中

ウ. 保育室での遊び 7月4日 (月)

○週案

- ねがい「雨の日ならではの音に耳を傾け、虫や植物、身近な現象に気付いて欲しい。」
- 全体の様子「朝、園庭に作ったカップを着て、遊びに行ったことから雨の散歩に行く流れになった。」



図41「雨の日の散歩」

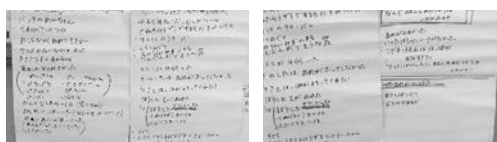


図42「雨の日の散歩で見つけた音、虫、植物」

雨の日の散歩で、近くの徳山小学校と児玉神社に探検に行った。徳山小学校では、一年生が生活科の授業で「雨の日」をテーマに校庭に出てきており、少し交流できた。雨の音から、発見したもの、疑問等を話し合いでまとめる。

梅雨の季節、雨を想定し、担任と子どもたちが話し合って、オリジナルのレインスーツをつくった。雨が降ったので早速、レインスーツを着て園庭で遊んだことから、徳山小学校と児玉神社探検となった。子どもの思いをしっかりとくみ取ることができ、全体での活動につながっている。

オ. 保育室での遊び7月7日（木）

○週案

- ねがい「遊びのつながりを楽しみながら集中して遊んで欲しい。」
- 全体の様子「今日は室内でもゆっくり遊べた。子ども同士の遊びのイメージの共有が大事と感じた。」
- 8日に向けて「子どもたちが他のクラスを呼びたいと言っているタイミングが今まで合わなかった。今は呼べる用意ができたので他のクラスと活動のタイミングを合わせたい。」

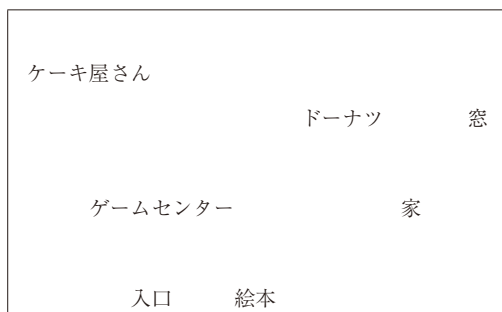


図43 「年長7月7日（木）保育室遊び」

カ. 保育室での遊び7月14日（木）

○週案

- ねがい「自分の役割を意識して異年齢での遊び楽しんで欲しい。」
- 全体の様子「今日は室内でもゆっくり遊べた。子ども同士の遊びのイメージの共有が大事と感じた。」
- 15日に向けて「段ボールハウスは片づけず遊んだ状態のまま帰ることにし、次の朝、続きであそべるようにする。」

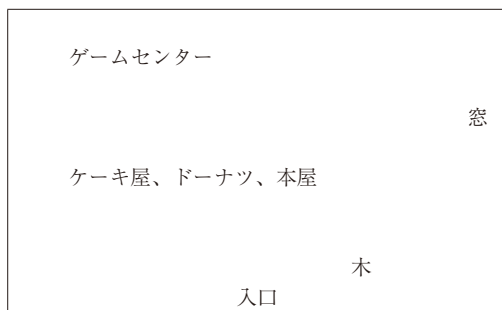


図44 「年長7月14日（木）保育室遊び」

- 今週作っていた木に虫をつくて貼る姿があった。年少児のりすさんも興味津々で、一緒に作る姿

があり、異年齢での交流がよくできていたと思う。

夏本番に近い7月は、子どもたちは虫に興味を持っている。年長児2名が始めた段ボール箱での木作り、交流に来ていた年少児も交じって活動することができている。

キ. 保育室での遊び10月14日（金）

○週案

- ねがい「友達と会話を楽しみながら遊びを進めて欲しい。異年齢との交流もあるだろう。」
- 全体の様子「今日は、朝も午後も思い思いの時間に仲良く遊んでいた。行事が落ち着いてきてこれからは思い思いの時間が長く取れそう。遊ぶ時間を保証して伸び伸びと遊びを進められるようにしたい。」
- 17日に向けて「ロケットを進化させたい子どももいるがメインで作ろうとしている女の子が装飾ばかり作り進めるためなかなか大がかりな改造に進むことができない。環境を見直し、アイデアが出ている間に改造を進められるようにしたい。」

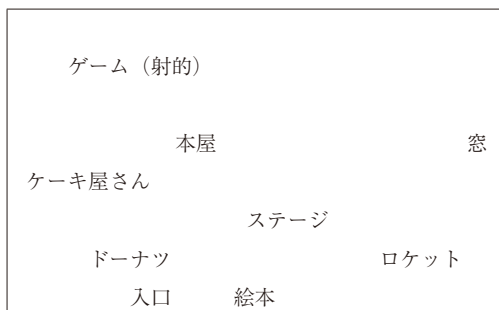


図45 「年長10月14日（金）保育室遊び」

○園庭

- ヒマワリ、トマト、キュウリ、ピーマン
- 水遊び
- 砂場



図46 「ドーナツ屋さん」



図47 「本屋さん」



年長児の遊びは、遊びが継続して続き、その中の遊びが深まる傾向にある。



図48「射的」



図49「ケーキ屋さん」

本屋さんの遊びは、6月にはすでにお家は完成していたが、屋根の部分があまくいなくて、修理する場面をよく見た。また、10月14日の週案に「本の無いことに気づいて本作りを始めた」とあり、10人くらいが本作りをしていた。

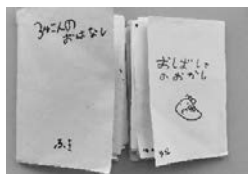


図50「本屋さんのための絵本製作」



図51「ロケット遊び」

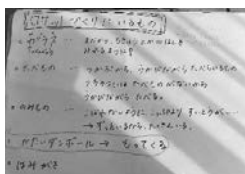


図52「製作メモ」

本屋さん、ケーキ屋さん、ステージ遊びなど他のグループは、順調に遊びを深めていった。ロケットは、週案にもあるように、壊れてボロボロになり、作り替えを余儀なくされているが中々端で見ているとうまく進んでいない。担任との話し合いをメモとしてまとめ、新たなロケット作りが始まった。この時も、子どもの思いを優先させ、願いが実現するようにしっかりしたサポートがきている。

表5「子どもの遊び（年長）」

月	ゲーム	お店	虫木	本屋さん	ロケット	園庭植物
4	■	■		■		■
5			■			
6				■		
7						
8						
9			■		■	
10						
11	■	■		■		■

②保育ドキュメンテーションから見た評価

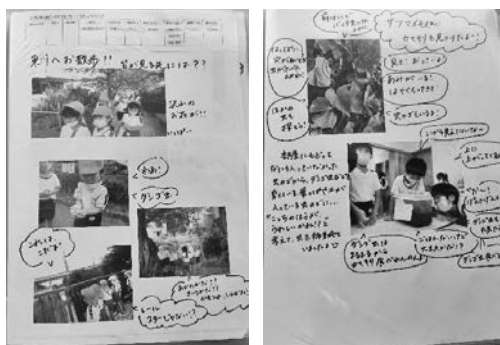


図53「年長保育ドキュメンテーション」

年長児の保育ドキュメンテーションを見ると、週案の中にも触れられているが、自然環境に関わる、植物、虫など季節によって変化する子どもの興味・関心に対応できている。10の姿のどの部分が育っているのか、育ちを実感しながら取り組んでいる様子うかがえる。

表6「保育ドキュメンテーションに記された10の姿：年長児」66事例

10の姿	健康な心体	自立心	協同性	道徳性規範	社会生活	思考力芽生え	自然生命尊重	数量図形文字	言葉伝え合い	感性と表現
66	63	44	40	18	33	58	51	35	65	58

4月より記録された保育ドキュメンテーションの内容を見ると、チューリップの球根植え、ペニユニア、コスモスの種まき、ダンゴムシやテント

ウ虫、オタマジャクシなど季節ごとに出会うことのできる植物や虫について幅広く記述してある。また、町探検、小学校との交流、10の姿のどこの部分が育っているのかの絶えず評価しながら保育に取り組むことができている。

愛光幼稚園の保育ドキュメンテーションは、玄関兼昇降口に年齢毎にまとめて置いてある。送り迎えの保護者が自然に目に入るようになっていて、保育ドキュメンテーションを通して保育者、保護者、園児のコミュニケーションが活性化できている。また、保育者同士の保育の情報交換、保育評価にもなっている。

#### (5) 年間指導計画(短期)と保育ドキュメンテーションによる評価のまとめ

愛光幼稚園の週案は、子どもの遊びが大きく変わった節に記入するようになっていて。子どもの主体の自由保育にしたとき保育の振り返りをどのようにするかがポイントとなろう。子どもの育ちを、10の姿でどのように捉えているか、保育ドキュメンテーションを作成することで一日一日の子どもの思いを捉え、週案の保育者の願い、全体の様子、次の日にむけてどのように環境を整えていくか、保育者の保育の振り返りへとつないでいる。保育ドキュメンテーションを見ると、10の項目についてチェックをするようになっており、子どもの活動について10の項目に照らしてのコメントも簡単であるが記入されている。保育ドキュメンテーションの記入について、書くことに慣れてくるに従ってその内容も詳しくなっている。

### 4. 子どもの造形表現からの保育評価

#### (1) これまでの保育評価

保育の評価は、保育を公開し、教材や保育技術についてそのあり方を検討することで評価を実施してきた。検討会では、保育者個々の意見が遠慮なく出せるように「付箋による」検討会が授業検討会の主流になってきている。図54のように、環境構成、発問等、保育の内容について話し合いながら検討していく。このことで、保育について振り返ることで保育力の向上が図れる。また、コーディネーターはどのようにコーディネートしていくか、保育者としての技量が問われるところである。



図54「付箋による検討」

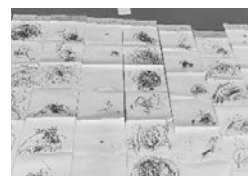


図55「個の表現を綴る」

保育の評価の方法として、子どもの表現をもとに振り返る方法がある。保育ドキュメンテーション等では、映像や動画などをもとに保育を振り返っている。図55は、1歳から2歳にかけての個のスクリブルを縦につないだものである。絵の表現の発達段階をもとに振り返りながらその子の個性や心のあり方を検討するものである。また、図56は、子どもの造形表現をもとに保育のあり方を考える任意の会での検討会で、子どもの造形表現をもとに、保育の意図や環境を指導した保育者に紹介してもらいながら保育のあり方を研修している。



図56「指導した子どもの表現をもとにした研修」

保育環境を構成していく技術として、子どもに経験させたい内容を絡めて、子どもが主体の保育にするための「教材化」に視点をあてて検討したい。教材は、これまでの文化的財産として存在している。しかしながら、どのように子どもに出会わすかについて、一斉保育であっても、子ども主体の保育にすることが大切である。まず、保育者が教材をどのようにとらえ、子どもが興味・関心を持つことができるように加工できるかが保育の力量である。「人や物、時間や場所」の構成を如何にするか、また、どのような関係性を持たせるかが視点となる。

#### (2) 子ども主体の保育のための教材化

造形表現活動において子どもの「みたく」をうながすように教材を加工できるならば、子どもは創造的想像を発揮でき、子ども主体の保育が展開

でき、保育者の専門性の向上につながるはずである。

①教材化の視点

ア. 絵本の持つ表現教育の可能性に着目し、子どもの関心・意欲が持てるように導入部分や振り返りに絵本を使用する

イ. 子どもの「見立て」を促すことができるように、教材の構造をとらえ、加工することで表現の幅を広げることができるようにする。

②絵本をもとにした保育の実際

事例：絵本「もりのおとぶくろ」から  
一音を絵に表そう～ 年長児～

下関市泉幼稚園

ア 教材について

絵本「もりのおとぶくろ」は、うさぎのおばあさんが病気になったので、子ウサギたちが見舞いに行ったところ、「森の音を聞いたら元気になる。」と言われ音を探しに森を探検するストーリーです。音を袋に入れて持って帰るお話をもとに、園で音探しに出かけ、見つけた音を絵に描いて袋に入れて持って帰る遊びにつなげていった。見つけた音をオノマトペで表現し、それを絵に表現することとする。

イ ねらい

- 「音探し」を通して、音を絵に描く事を楽しむ。
- 5感を通し、自分の探した音を描き広げることを楽しむ。

ウ 準備

コンテ、スパッタリング網、白画用紙（1ツ切り）

エ 保育の実際（導入の工夫）

導入では、絵本「もりのおとぶくろ」の読み聞かせをした。お話の中の「音の入った袋を持って帰った」ことを確かめ、「園の中で見つけた音をコンテで描いて、袋に入れる」遊びを提案した。絵本と同じように、袋に入れることを意識させることで、いろいろな音を探すことを知らせた。

カ 保育の展開（園庭で音を探す）

子どもたちは早速園庭に出て音を探し始めた。とても風が強く、風の音、葉っぱが揺れる音など、普段より音が探しやすい環境になっていた。描画材料は、コンテで粉を落としやすいようにスパッタリングの網を用意し、コンテで描いたところを消しゴムで消して描けることを知らせた。



図57 「園庭で音を探して描く」

園庭にある遊具、木、草など思いついたところに音探しに出かけた。絵が描けたら、袋の中に入れて、また探しに出かけている。

園庭に出ると、風がとても強く、遊具に乗ったり、芝生に座ったりして、風の音の変化に耳を傾け、体で感じたりするなどして描きはじめた。コンテを使って、粉をすりおろしたり、線で描いたりして風を表していた。



図58 「風の音を集めて」

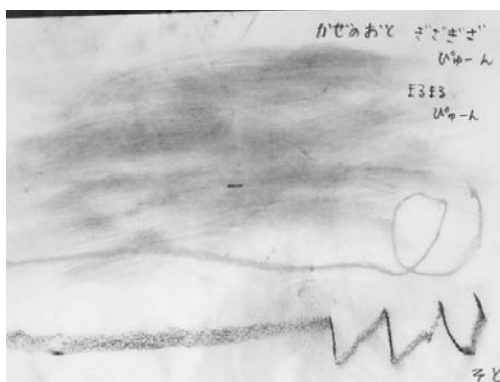


図59 「風の音1」

園庭で見つけた蟻やバッタなどの虫に目を向け、音をオノマトペで言い表したり、コンテで描いたりしていた。

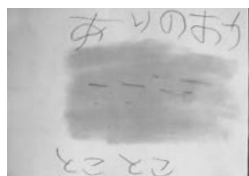


図60「蟻の音」



図61「コメツキムシの音」



図63「遊具の音」

庭の草を掻き分け虫を探していたが、やっと「こめつきむし」を見つけ、絵に描木「ちっち ちっち」とオノマトペを書いている。

園庭の木の葉っぱが風に揺れて出す音に着目し、まず、木の幹を描き、それから思い思いに葉っぱを描き入れている。「ザワザワ」「シャカシャカ」などのオノマトペで表現している。木の幹の形は、子どもが見つけた木の枝の形で表現されている。

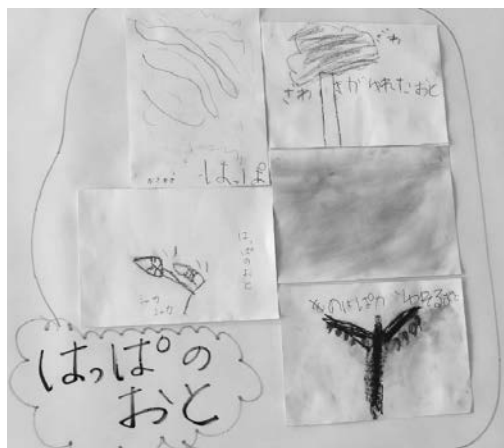


図62「葉っぱの音」

園庭にある遊具、木、草など思いついたところに音探しに出かけ、絵が描けたら、袋の中に入れ、また別のところに探しに出かけている。約1時間、どの子も飽きることなく音探しをしていた。途中でお互いに情報交換をし、自分が探していない音の情報を入れるとその子についてその現場に行っている。コンテの使い方や色の使い方も友達の見ながら自分に取り入れようとする姿も見られた。

キ 「見てみてタイム」で自慢する

絵が描けたら、友達のところに行って絵を動かしながら見せ合いっこをしていた。そこで、同じテーマで描いている絵を集め、掲示することにした。今回は、子どもが見つけた音の「オノマトペ」を聞きとることが主になり、紹介する時間は後日になった。

ク 保育をふりかえって

絵本「もりのおとぶくろ」の「音袋」のお話に興味を持ち、音という形のないものに想像を働かせ、オノマトペと共に表現している。形のないものを想像することは、想像することが難しいように感じられるが、コンテを使うこと、粉で摺り下ろすモダンテクニックを使うことで、より表現がしやすくなっている。

### (3) 子ども主体の保育のための教材化Ⅱ

造形表現活動において子どもに経験させたい技能をもとに、子ども主体の活動となるように教材を加工できるならば、子どもは創造的想像を發揮でき、保育者の専門性の向上につながるはずである。

#### ①教材化の視点

ア. ホッチキスは、紙をきちんとつなぐことのできる機能を持っており、子どもの握力がつくにつれてホッチキスの使用が可能となると、つなぐ表現の幅が広がる。「紙をつないで遊ぶ」という視点から、子どもの関心・意欲が持てるように教材化する。

イ. 子どもの「見立て」を促すことができるように、「紙をつなぐ」という行為に目を向け、テープ状の紙をつなぐ、自由に紙を切ってつなぐという提示する紙の形、加工の仕方により表現の幅を広げることができるようにする。

#### ②つなぐ行為から教材化した保育の実際

事例1 題材「切ってつないで」

～下関市泉幼稚園：年中児～

ア 教材について

本題材は、ホッチキスの使い方の導入教材として、幅3cm、長さ38cmの帯状の画用紙をホッチキスを使って横に繋ぐ、立てに繋ぐ、輪っかにする例を示し、どんな遊びができるかの造形遊びである。

イ ねらい

- ホッチキスで画用紙を繋ぐ活動から自分の見つけた遊びを楽しむ。

ウ 準備

白画用紙(幅3cm、長さ38cmの帯状)、ホッチキス、カラーマーカー等

エ 保育の実際(導入の工夫)

帯状の紙を、ホッチキスを使って横に繋ぐ、立てに繋ぐ、輪っかにして実際に繋いで示し、どんな遊びができるか問いかけた。



図64「輪っかにして」



図65「ウサギだよ」

子どもたちは、初めてホッチキスを使うので、使い方として、両指で押さえる、手のひらを使って体重をかけて押さえるやり方を示した。子どもたちがうまくつながることができるか、子ども個々に確かめてから遊びを促した。

事例2 題材「切ったり、つないだり」

～下関市泉幼稚園：年長児～

ア 教材について

本題材は、画用紙を任意に切り、切った形を何かに見立て、ホッチキスで繋いで遊ぶものである。

イ ねらい

- 画用紙を切ってできた形を何かに見立てホッチキスでつないで遊ぶことを楽しむ。

ウ 準備

白画用紙(16っ切)、ホッチキス、ハサミ、カラーマーカー等

エ 保育の実際(導入の工夫)

画用紙をハサミで切り、何の形に見えるか問いかける。そして、ホッチキスを使って繋いで、見えたものになるように作って行くことを示した。



図66「切ったり繋いだりして」

事例1、事例2は、ホッチキスで画用紙を繋いで遊ぶというねらいは同じである。子どもたちに示す画用紙の大きさの違いが遊びの違いになっている。形から見立てるか、繋ぐという行為からできた形から見立てるかで遊びの質が変わってきている。紙を繋ぐ操作性のある事例1の方が身体全体を使った遊びに発展できるようだ。

(4) 子ども主体の保育のための教材化Ⅲ

製作あそびの造形表現活動では、モデルが示され、モデルそのままをつくるのが目的となり、創造的な想像力を発揮する部分が少なくなりがちである。自分が遊ぶものをつくるにしても、いわゆる、マニュアル通り、設計図にしたがって作るにだけに終わっては「工夫する」部分が半減するだろう。子どもがつくっては試し、試しながら工夫する、そこから動きや形を見立て、自分の思いを乗せたものをつくる。このような表現過程を歩ませるための教材化ができるならば、保育者の専門性の向上につながるはずである。

①教材化の視点

ア. 紙の山折り・谷折りを使うと「動く仕組み」をつくることができる。動く仕組みからできる「動き」と「形」から見立て「何に見えるか?」「何が出ると面白いかな」等、自分の思いついたものをつくって楽しませたい。

イ. 子どもの「見立て」を促すことができるように、基本の仕組みと動きを提示し、基本のモデルを使って動かして遊ぶ場設定をすることから「見立て」させたい。

②動きからみた保育の実際

題材「出たり、入ったり!!何ができるかな?」

～下関市泉幼稚園：年長児～

ア 教材について

蓋と底のない四角柱に上に出る部分を山折り・谷折りに折った画用紙を貼り付けると、四角柱を折りたたんだり開いたりすることで、折った紙が出たり入ったりする。このような簡単な動く仕組み

みを生かし、思いつくものをつくって遊ぶものである。

イ ねらい

- 動きや形から見立て、見立てたものをつくって遊ぶ。

ウ 準備

白画用紙（10cm×30cm＝1枚、3cm×18cm＝2枚）、糊、ハサミ、カラーマーカー等

エ 保育の実際（導入の工夫）

動く仕組みのモデルを使って、四角形から紙が出てくる所を手品のように出して見せた。モデルの仕組みを示し、その作り方を示した。印刷された画用紙をハサミで切り、山折り谷折りを確かめ、子ども個々にモデルが作れているか確かめていった。

モデルができたところで、モデルを動かして遊ぶ時間を設け、見立てることができた子どもから作り始めていった。



図67「動く仕組みをつくって」

この題材は、動く仕組みのモデルをまず全員の子が作ることが一つの課題となる。全員の子ができたことを確認しながら保育を進めていくので、個人差にどのように対処していくかを考えておかなければならない。また、動く仕組みのモデルで遊ぶ時間をしっかり設けることで見立てができるが、ここでしっかり子どもに関わっていくことがポイントとなる。

## （5）感触遊びからの教材化

### ①教材化の視点

絵の具を素材としての遊びを子どもたちに体験させたい。絵の具と水の関係から、流して遊ぶ、垂らす、ぶっつけるなどのモダンテクニックを提案し、偶然できた形を見立てる遊びへと発展できる。ここでは、絵の具に液体粘土混ぜ、手で絵の具を感じながら、混ぜることを通しての遊びに誘いたい。

## ②感触遊びの保育の実際

### 題材1「絵の具をぐちゃぐちゃ」

～下関市泉幼稚園：年長児～

ア 教材について

液体粘土は、紙粘土を水で溶いたものであり、水で溶いた粘土の感触を楽しむことができる。乾燥すると感触を楽しんだ指の跡をそのまま残し、固体となる。液体粘土に絵の具を混ぜ、布の上に手で感触を楽しみながら混色する様子や感触を楽しませたい。乾燥した後、できた形や色から見立て、マーカー等で描き加える遊びに発展させたい。

イ ねらい

- 液体粘土の感触を楽しみながら、絵の具を混ぜてできる色や形を楽しむ。

ウ 準備

白木綿布（30cm×30cm）、液体粘土、絵の具（赤、緑、青、黄）等

エ 保育の実際（導入の工夫）

液体粘土に絵の具を混ぜてみせ、手でしっかり混ぜてみせた。好きな色2色を混ぜる事を伝えた。



図68「手で、混ぜ混ぜ・・・色が変わったよ!」

### 題材2「土粘土で遊ぼう」

～下関市泉幼稚園：年少児・年中児・年長児～

ア 教材について

土粘土は、可塑性に富み、量感覚、触感覚を味わうには最高の素材である。子どもたちは、遊びの中でどの団子を作って磨いたり、粘土を紐にして蛇をつくったりするなど楽しんでいる。水を含ませる量でその感触が変わるのでその変化を楽しませたい。

イ ねらい

- 土粘土の感触を楽しみながら、体全体を使って土粘土を使って遊ぶことを楽しむ。

ウ 準備

土粘土（一人4kg）粉粘土、へら等

エ 保育の実際（導入の工夫）

年少児と年中児には、一人4kgの土粘土を用意する。出会わせ方として、二クラスあるので、一人分の粘土を分けて用意する方法と全員分の粘土

を山に積んで出会わせる方法とを試した。



図69「一人分に分けて出会わせて」



図70「粘土を山に積んで出会わせて」

粘土を山にして出会わせると、まず、山に登ることを楽しんでいた。そこへ、粘土の山に水を掛けると、滑ることを友達と協力して楽しむ様子が伺えた。その遊びに満足すると、自分に必要な量の粘土を使って団子を作ったり、紐をつくったりする遊びになっていった。

年長児は、粉粘土に水を混ぜて見せ、「耳たぶ」くらいの堅さになるように粘土を練ろうと提案した。

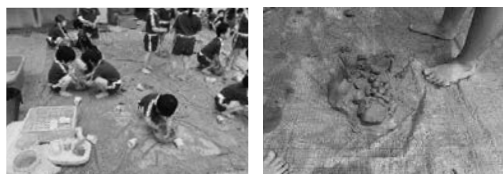


図71「粉の粘土に水を混ぜて」年長児

耳たぶくらいの粘土をつくることができた子どもは、ブルーシートの上に落ちた粉粘土に水を流し、裸足で滑って遊んだり、指で字や模様を描いたりする遊びを楽しんでいた。

手のひらや指を使って、感触を楽しむ遊びは、感性が最も育まれる幼児期にこそ大事にしたい。土という素材に触れることが少なくなって現在の子どもたちに、この環境をつくってやれることが大切である。「手を使って考えると言われる」ように色々な素材に体を通しての出会いができるようにしたい。

## 5. おわりに

保育の評価について、そのあり方について考察

してきた。評価の考察をするとき、造形の内容に関して、「自己伝達」、「他伝達」の考え方に当てはまるのではないかと考える。自己伝達とは、自分の表現について「これでよし」と自己評価する。また、「ねえ、見てみて」と他人に自分の表現を伝えようとするつまり、「他己評価」である。保育者が、自分の保育に関しての自己評価、「これでよし」と振り返る方が「保育ドキュメンテーション」ではないだろうか。自分の保育の「ここを見て」、「こんな力が育っている」ということを示すものだろう。自分の保育について、写真付きの「保育ドキュメンテーション」を作成することで、保護者、地域社会に対しての情報を公開することができている。園内でも、保育ドキュメンテーションを見ることで、園長はじめ同僚からも意見を聞くことができている。今回の周南市愛光幼稚園の実践をみると、保育ドキュメンテーションに取り組んだ初めは、簡単なコメントで、10の姿についても、その内容に触れるだけであったが、慣れるにしたがって、その内容が密になっている。公開保育発表のための取り組みであったが、「やれる範囲で」「継続して、長続きできる」取り組める内容にしている。保育者が本気になって取り組むことで、子どもは、着実に、伸び伸びとした育ちをみとることができる。

保育者の保育力の向上を目指すとき、これまでの取り組みを保育の造形に関する事から振り返ってみた。造形では、絵として子どもの表現を後から振り返ることができる。クラス全体の絵を見ると、そのクラスの様相が、絵から読み取ることができる。映像や動画から振り返るという保育ドキュメンテーションも一つの方途だが、子どもの表現を振り返ることで、自分の保育に関して振り返ることができるだろう。

また、これまでの公開保育を通しての保育のあり方に関して振り返ることは、同じ保育を同時に見てどう振り返るのか、どう見るのか、保育者としての考え方をもとに同じ立場で検討することは、保育力の向上について最も有効で、同僚性の構築にも役立つだろう。その方法として、「付箋による検討会」は、経験の少ない保育者にとって、「自分の意見を遠慮無く示すことのできる方法ではないか。

保育者の保育力の向上のあり方を思うとき、「子ども主体の保育」にするために教材をいかに加工

するかの方が必要であるとする。保育者主体の保育は、とても簡単である。いわゆる「やらせ」をすれば、保育者の思うようにやれば、子どもが素直な分、簡単であろう。「どんな子どもに育てたい」ということから考えると、子どもを主役にし、子どもの自立を促す保育にするには、保育者の関わりが大変重要なポイントになる。造形に関していえば、保護者から見て「見栄えのよい」ようにつくらせばよいのではなく、つくること、描くことによって子どもに何が育っているのか、育てようとしているのかをはっきり示すことができる事が大切である。教材をこれまでの「文化」として見ると、この素材をどのように加工すればよいのかについて考える力が「保育力」に必要である。

#### 引用・参考文献

- i 「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」令和3年2月。文部科学省p14
- ii 「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」令和3年2月。文部科学省p15
- iii 「指導と評価に生かす記録」令和3年10月。文部科学省
- iv 「幼児理解に基づいた評価」平成31年3月。文部科学省
- v 「指導と評価に生かす記録」平成25年7月。文部科学省
- vi 「日本版保育ドキュメンテーションのすすめ」大豆生田啓友・おおえだけいこ 著 令和3年 教育技術新幼児と保育MOOK.
- vii 「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」令和3年2月。文部科学省
- viii 「保育所保育指針解説」平成30年3月。厚生労働省
- ix 『子どもが対話する保育「サークルタイム」のすすめ』大豆生田啓友 豪田トモ 著 2022年7月6日初版